

東奥日報
2019年(平成31年)2月5日(火曜日) (12)



マチニワ隣接地の活用案について説明する中村さんらのグループ

マチニワ隣接地の民有地

コンテナ店と自由空間に

八工大生活活性化へ提案

八戸

八戸市中心街の活性化を目指す、八戸工業大学生のまちづくり提案報告会が1月30日、同市の八戸ポータルミュージアムはっちで開かれた。昨夏オープンした八戸まちなか広場マチニワに隣接する民有地の活用案など、にぎわい作りへ向けたユニークな提案が相次いだ。

(若松清巳)

同大と市、第3セクター

「まちづくり八戸」は2016年、まちづくりへ協力する覚書を締結しており、学生の提案はこの一環。この日は同大土木建築工学科土木工学コースの3年生が授業の中で取りまとめた計6案を、会場の学生や市民ら約60人に披露した。

中村優真さんら5人がプレゼンしたのは、マチニワと横丁「花小路」に隣接する約360平方メートルの長方形の土地をにぎわいスペースとする案。発表で中村さんは「民有地だが自由に使用したいという前提」とした上で、大きなコンテナを活用したテークアウト料理店や雑貨店を集めた「コンテナビル」と、各種イベントが開ける広場状フリースペース「ヨコニワ(仮称)」を併設するとした。

市民からは「ヨコニワのネーミングも良く、広く理解が得られる」と好意的な意見が寄せられた。一方、花小路の活用案も考えてほしいとの意見もあり、学

生たちは「土地は花小路にも面しており、魅力的施設ができればにぎわいが波及するはず」と答えていた。

報告会ではほかに、各横丁の舗装やトイレなどの整備提案、市民や観光客向けの中心街回遊ルート提案などがあつた。学生たちは市民らの声を参考にアイディアをさらに磨き、2月に小林眞市長へ報告する。

同大は17年度、覚書に基づいて花小路を快適な歩行空間とする基本設計案を作成。花小路周辺の地権者らによる協議会は市の支援を受け、この案をベースとした整備に取り組んでいる。

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」